

堂 谷 津 の 里 か ら

堂谷津の里の主なイベントの一つである田植えについては、新型コロナ感染防止のため、マスクの着用、家族ごとに田を分担、その距離を空けるなどの対策を講じて実施し、参加者の皆様のご協力によって計画どおり終了することができました。

また、通常社員総会が6月5日に開催され、2020年度事業報告と決算が承認され、役員の変更が決定されました。

今年は、3か所に設置してあった「待ち箱」という巣箱の一つにニホンミツバチが入居しました。そこで、その飼育、保護活動をしている会員の方に寄稿していただきました。

【田んぼでは】



5月2日は一般参加者約40名で、3日は主に会員で、4日は「親子で米づくりと自然の体験」参加の8家族で田植えを行いました。

稲はここまで成長しました。ドロオイムシによる被害が心配ですが、中耕除草機や手取りによる除草は欠かせません。

【山林では】



ナラ枯れをもたらすカシノナガキクイムシ（カシナガ）の飛来、穿孔防止のため、コナラ広場のシンボルツリーをサランラップで巻き、根元は防草シートでひだ状に覆い、丸太で地面に密着。クリアファイルの簡易トラップも設置しました。

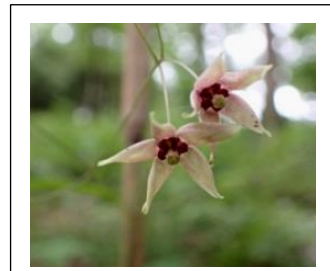
【堂谷津の里自然観察会】

テーマ：「初夏の自然散策」

日 時：5月22日（土） 9:30～12:00

参加者：13名

絶好の観察会日和。林縁や林床に咲く野草の花々、谷津に響き渡る夏鳥の声、世代を繋ぐむしとの出会い。初夏の里山を歩いて、心も体もリフレッシュ！しました。



クサナギオゴケ

寄稿

ニホンミツバチ

今年の梅雨は隙間に広がる晴れ間が心地よいですね。去年は長雨によって日照不足と低温が長く続き、花蜜の分泌が悪く、ミツバチにとっては受難の年でした。せっかく入居してくれた西側斜面の群は残念ながら逃去してしまいました。今年入居してくれたのはトイレ横の杉の切り株に設置した巣箱です。4月12日に入居いたしました。前の畑でたくさんの菜の花を育ててくださったおかげかもしれません。

これは入居の翌日に撮影した写真で、巣箱の天井に綺麗な球体を作っています。これを蜂球と言います。この時点ではまだ巣は出来ていませんが翌日から急ピッチで巣を作り始めます。巣板と言って板状の巣で六角形の巣房が両面に並んだ板が6枚~7枚、巣箱の天井からぶら下がり、下に向かって成長して行きます。



巣箱は重箱式巣箱と言って、上下が抜けている枠状の箱を積み上げた形ですが、巣板が下に伸びて来たら、巣箱を持ち上げておいて下に1段足して、巣板を作って行ける空間を確保してあげます。この作業を継ぎ箱と言います。巣板の成長に合わせて継いでいき、秋までに4段~5段になれば越冬に必要な貯蜜が貯まります。ミツバチは寒い冬を乗り越えるためにみんなで羽を震わせて巣箱内の温度を36度に保ちます。このエネルギー源が蜂蜜なのです。



養蜂を生業とする人は秋に採蜜しますが、堂谷津の巣箱では採蜜せず、無事に冬越し、翌年にめでたく分蜂できたら、来年の今頃に採蜜する予定です。天然のニホンミツバチの蜂蜜は市販のものとは比べ花の香りが強く、濃厚な味わいがあります。1年間大切に育てて、来年はぜひ皆さんで試食したいですね。巣箱が高くなって、蜂たちの数が増えて元気に暮らしてもらえるように見守って行きましょう。(S.O.)



<情報コーナー>

2021年度は、新監事に竹内奈緒子さんを迎え、佐藤聡子代表理事、斎藤幸一副代表理事の体制で活動していきます。監事を退任された小澤善太さん、長い間有難うございました。

NPO 法人バランス 21

E-mail :yatosatoyama@gmail.com

URL :<https://balance21.jimdo.com/>

連絡先：千葉市若葉区谷当町 70

TEL & FAX:043-239-0645 (現地)